

## 国税庁の税制優遇措置を受ける「認定NPO」の取得

祝

コロナ禍前に取り組み始めた「認定NPO」の取得ですが、コロナ禍の影響で、会員数が激減し、また、東南アジアへのフライトがなくなったため、事業規模が5分の1程度に縮小せざるを得なくなり、事実上、断念せざるを得ない状況が続いておりましたが、そうした中でも、継続会員の方々からのお誘いで、昨年度100名の方々の方々の会員登録や、ベトナム北部の貧しい小学校への「トイレ建設支援プロジェクト」を中心とした提案への多くの方々のご寄付などにより、2年間平均で会員が100名というハードルをクリアして、今年の

6月に、監督庁である福島県へ、「認定NPO」の申請を提出させていただくことができました。

今年になり、フライト再開に伴う三年ぶりの海外出張から帰国してすぐの8月中旬、現地調査の連絡が届きます。運営・事業・会計関連の30種類にも及ぶ帳簿と文書の準備が必要であることが分かりました。それらの中には、これまで、整えていなかった帳簿や文書もありました。睡眠時間を減らしながら、精神的なストレスから「蕁麻疹と耳鳴り」を発症し、それらと戦いながら精一杯取り組み、準備を整えました。現地調査は、9月7日(水)、福島県企画調整部文化スポーツ局文化振興課の担当の方2人が、事務所を訪問くださり、早朝から夕方まで、すべての帳簿と文書に目を通しての鋭い質問とご助言・ご指導に、冷や汗の連続でした。それから一週間に数度、運営や会計についての質問や改善点などについて、メールでのやりとりがありました。「認定NPO」の認証がいただけるかどうかは、半々だと思いました。

それから待つこと2週間。9月23日に、一通の封筒が事務所に届きます。裏書きは、「福島県企画調整部文化スポーツ局文化振興課」です。封を開けるのにも勇気が要りました。「貴法人を認定NPOに認証します。」この数文字が、どれほど輝いて見えたことでしょうか。どれほど待ち焦がれたでしょうか。なんと、お彼岸に悲願を達成することができたのです。

これまででも、年に数度、「お宅のNPOは、『認定』は、持っておられるのですか？」という電話やメールが届いたことがありました。ホームページやfacebookの投稿をご覧いただいた方が、寄附を検討してくださっていたのだと思います。

9月20日以降に寄附をいただいた方々には、右のサンプルのような寄附金受領証明書をお送りさせていただいております。この証明書は、確定申告の際に提示いただければ、税制上の優遇措置（寄附金控除）を受けることができますので、大切に保管いただきご利用いただければ幸いです。

ただし、会費の納入については、寄附金とは見なされないため、この寄附金受領証明書は、発行できませんので、ご理解をいただければ幸いです。もし、寄附金控除を受けたい場合には、会費ではなく、寄附金としてお振り込みいただければ幸いです。

「認定」の文字の無い封筒の在庫がまだまだあります。しばらくは、それらの封筒には、「認定」の文字をゴム印で押印することとしました。嬉しい作業です。

**認定**  
NPO法人 シーエス  
Challenge for School Rev

No.2022-001

### 寄附金受領証明書


住 所 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_ 様

¥ SAMPLE

上記の金額を受領いたしました。

令和4年 月 日

認定通知書の番号 福島県指令文ス \_\_\_\_\_号  
認定年月日 令和4年9月 \_\_\_\_\_日  
福島県福島市八島町6番29号  
特定非営利活動法人 シーエスアールスクエア  
理 事 長 宍 戸 仙 助 

(注) 上記の金額は、当法人の行う特定非営利活動に係る海外支援事業に関連する寄附金として受領した金額であり、租税特別措置法第41条の18の2第1項及び同法第66条の11の2第2項に規定する特定非営利活動に係る事業に関連する寄附に係る支出金に該当することを証明いたします。

この寄附金の支出による税制上の優遇措置の適用を受けるためには、この「寄附金受領証明書」が必要となりますので、相当期間大切に保存してください。

# 祝 トゥエン・クアン省、ラム・ビン郡の小学校2校 トイレ建設支援の現地確認

## 【トイレ支援プロジェクトの確認、その①】

Facebook, 8/29投稿より

昨年10月にスタートし、LINEグループの「CSRスクエア熱量MAX隊」が中心となり支援して、今年の5月末に完成した「フック・イエン小学校のトイレ」の完成確認と、ステンレプレートの取り付け準備は、今回8月の現地訪問のミッションの重要な一つでした。

8月6日土曜日。訪問順序が変更されていたため、子供たちには会えませんでした。校長先生以下数人の職員で、待っていただきました。訪問者代表の葛木淳二様と一緒に、プレートを贈呈し、校長先生とも再会を約束して来ることができました。

葛木様と教育訓練局長のVinhさんが、同級生ということもあり、中味の濃い心温まる交流ができました。思い出に残る素晴らしい訪問となりました。（※フック・イエン小学校の銘板は、会報9号に掲載しましたので、ここでは省略させていただきます。）



フック・イエン小学校記念プレート裏面

## 【トイレ支援プロジェクトの確認、その②】

Facebook, 8/30投稿より

前掲のフック・イエン小学校から、山一つを隔てたバンタン村のフック・ソン小学校、ここは、89人の子供たちと7人の先生方のために、先生方手作りのたった一つの粗末なトイレしか無かった小学校です。

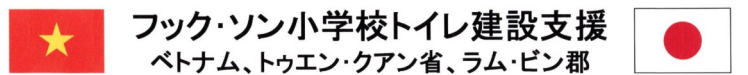
訪問出来たのは、8月6日、午後3時でした。子供たち30人ほど、先生方7人、村人20人ほどが、出迎えてくれました。夏休み中で暑さの中にもかかわらず、民族服を着て待っていてくれました。

校長先生が着ているのが、ザオ族の民族服です。あまりの歓迎ぶりに、涙を抑えることができませんでした。サッカーボールや大日向小学校の子どもたちからの「あみぐるみ」やお菓子箱一杯の折り紙を手渡しました。とても、喜んでくれました。

教室で、簡単なバンブーダンスも見せてくれました。5月中旬の水害の中、完成が遅れていたトイレも立派に完成していました。感動です。感謝です。

鎌倉学園・福島南高等学校・町田市立南大谷小学校・大日向小中学校の名前の書かれた銘板も壁面への取り付けをお願いしてきました。心のつながりを感じた訪問でした。

ご支援いただきました寄付者の方々に、あらためて、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



## *Phuc Son Primary School Toilet* Lam Binh District, Tuyen Quang Province

Donated By  
CSR<sup>2</sup> Japanese NGO CSR-Square  
6/August/2022

### 日本国内小中高等学校児童生徒&協賛支援者の方々

神奈川県鎌倉学園・バンタンプロジェクト、 声田 衛、大石孝裕、ハヤシ製作所、坂本武典、鈴木好則、清水昌也、寛 久典、若松姫恵子、松本牧子、比留川学、東京都町田市立南大谷小学校児童一同、 常泉寺、高信由美子、太田利彦、神岡祥恵、榎富久也、長野県茂来学園大日向小・中学校児童一同、 松下伸廣、柳 裕之、柳 文男、齋藤典子、吉川哲也、妹尾由香、菅野八百子、中込志津子、山本 禎、塚塚由美子、太田光紀、福島県立福島南高等学校、 長原美香、松垣拓司、渡辺とし子、岡崎忠昭、渡邊直子、国際文化科生徒一同、 鈴木教弘、真鍋秀則、高瀬正博、木島良三、新村純一

### 壁面設置を依頼してきた銘板



フック・ソン小学校記念プレート裏面

# Dong Hanhプロジェクトと災害緊急支援

ド ン      ハ イ ン

(このページ掲載予定の出前授業・講演会の記録は、次号に掲載させていただきます。)

## コロナ感染拡大防止のための ロックダウンと生活困窮者

右のグラフは、ベトナム全国の2021年4月から2022年1月までのコロナ感染者数の推移です。8月16日で、週平均の感染者約1万数千人。1月28日は、3万人に届こうとしています。この感染拡大を防ぐために、ホーチンミン市では、2回目は、昨年6/19から二ヶ月近くのロックダウンが続きます。

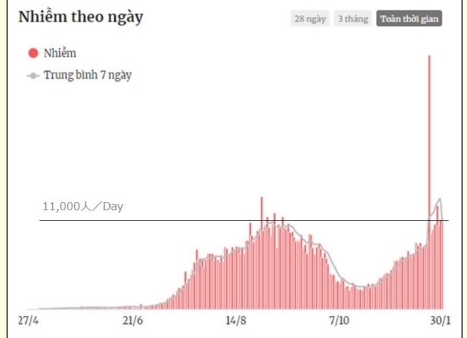
こうした場合、奥地から都会へ出てきて働いたり、学んだりしていた人々が、最も大きな影響を受けてしまいます。働くことができず、給料ももらえず、家賃が払えず、食料も手に入らなくなってしまったのです。右の写真は2021年10月5日のホーチン市で、若者たちが、身の回りのものだけをまとめて、バイクで、田舎へ向かって帰ろうとしている様子です。こうした若者たちは、能力や技術はあっても、田舎へ戻っても、仕事がないのです。食料は、何とか手に入っても、現金が手に入らないのです。こうした若者たちは、生活困窮者として田舎に溢れました。こうした人々を支援するには、マイクロファイナンスという方法もありますが、その恩恵にもあずかれない人々なのです。

そうした人々を助きたい・支援したいというプロジェクトが、CSRスクエアで、今年4月から新しくスタートしたDong Hanh(ドンハイン)、「共に、友と」です。この取り組みは、ホームページの海外支援の部分に、新しく追加されていますので、ご覧いただき、ご支援をいただければ幸いです。

ベトナム中部のクアン・チ省の西部フオン・ホア郡で、そうした若者に、一人25万円ほどの支援金で、3年間で生活を立て直すチャンスを見いだしてもらい、3年後、その支援金を返還してもらう取り組みです。この支援金のほとんどは、日本で働き・学ぶベトナムの若者たちからの寄附なのです。

今年8月の現地訪問で、CSRスクエアとして支援している二人の青年に会ってきました。右の写真は、山奥の傾斜地で、ベトナムの純血牛を飼育し、子牛を育てるという取り組みを始めたホー・ヴァン・デットさん(中央)です。

この村の人々の名字は、すべて「ホー・ヴァン」でした。「ホー」は、ホー・チ・ミンのホー。「ヴァン」は、すべてヴァン・キェウという名の少数民族のため、そのヴァンでした。村全体が、極度の貧しさの中にありました。



## 9/28上陸の台風16号による洪水と 災害援助緊急物資の支援

10月8日の午前中、ベトナム中部での被害の大きかった、クアン・ナム省ティエン・フォック郡、ティエン・チャウ小学校、そして、学校周辺の5つの身障者家族の家に、米・ミルク・文房具などを緊急支援品として届けてことができました。

朝6:30、ホテルを出発して、新鮮に必要なものを「Mega Market」で買い足し、到着したのは、午前10時少し前でした。ダナン市からは、市内の英語教室に通う現地の子供たちと保護者の方々も同行してくださいました。参加者、皆さんが自費で緊急支援物資を買い、自分たちで車と運転手を雇っての参加です。

被災地の子供たち・先生方・村人が、とても喜んでくださいました。本当に必要ものを、必要なときに届けられるのは、ダナン市のボランティアスタッフのトイさんのお陰です。ご支援の日本の皆様にも、心からの感謝を申し上げます。



2022年4月～2022年9月の正会員、特別寄付者名（敬称略）

◆正会員◆

北海道	柿崎 幸至	東京都	ファン・シン・トゥ	福島県	上野 富男
同	山本 禎	同	マイ・スン・カン	同	柿沼 孝明
宮城県	佐藤 緑	同	真鍋 秀則	同	柏 正二
同	佐藤美奈子	同	柳田 邦男	同	片野 宗和
埼玉県	飯田 康博	同	柳 裕之	同	神岡 祥恵
同	太田 光紀	同	吉野 佑	同	菅野八百子
同	加藤美恵子	同	吉村 康佑	同	小平 一夫
同	近藤 敏	神奈川県	梅津多美子	同	斎藤 精次
同	近藤 洋子	同	楫 富久也	同	齋藤千賀子
同	和田 薫乃	同	川原 淳	同	齋藤 ミネ
栃木県	片瀬 英彰	同	小林 暉	同	佐藤美保子
同	田崎 真	同	小林みゆき	同	宍戸 仙助
千葉県	石塚 勝巳	同	佐藤 純子	同	宍戸 正幸
同	太田 利彦	同	佐藤 洋平	同	宍戸美紀子
同	小林 弘英	同	清水 昌也	同	島田 莊
同	中込志津子	同	園部 和弘	同	鈴木キミ子
同	藤原 勝子	同	田中 正幸	同	鈴木 教弘
東京都	吾妻 隆一	同	中山 敏夫	同	鈴木 好則
同	厚地 美知	同	新村 純一	同	高橋 智里
同	伊勢 英子	同	比留川 学	同	高信由美子
同	猪俣 貴子	同	松下 伸廣	同	富山 幸子
同	岩本 悠佑	静岡県	大石 孝裕	同	長原 美香
同	大西真由美	三重県	村上 晴紀	同	西坂 勲
同	河内 和宏	大阪府	芦田 衛	同	林 克重
同	木島 良三	同	野口 貴裕	同	福田 文子
同	小牧 雅美	同	山口 拓也	同	室井 君男
同	清水 誠	兵庫県	石原佳代子	同	室井 公子
同	菅原 典彦	同	柴野 建夫	同	横谷 進
同	高見澤浩介	同	谷川 亮	同	吉川 哲也
同	ダニエル・フラス	同	桧垣 拓司	同	渡辺とし子
同	葛木 淳二	広島県	今井 清香	(匿名希望1名)	
同	徳永佐智代	同	山下 浩史		
同	徳永 真	島根県	妹尾 由香		
同	富塚由美子	福岡県	坂本 武典		
同	南雲 利明	同	松本 牧子		
同	南雲 紀子	USA・LA	金子 祐仁		
同	西川 敬子	福島県	安斎 純子		
同	平沼 京子	同	伊藤 稔		

◆法人会員◆

山形県 (株)ベ ス ト  
 大阪府 (株)松原工務店  
 福島県 (株)春 光 園  
 同 (株)ハヤシ製作所

◆寄付者◆

栃木県 柳 文男  
 千葉県 中込志津子  
 神奈川県 園部 和弘  
 東京都 伊勢 英子  
 同 V Y S A  
 同 DongHanhプロジェクト  
 同 マイ・スン・カン  
 同 真鍋 秀則  
 同 柳田 邦男  
 同 吉野 佑  
 同 若松姫恵子  
 同 (匿名希望1名)  
 愛知県 牧原 東吾  
 三重県 村上 晴紀  
 兵庫県 石原佳代子  
 島根県 高瀬 正博  
 VN・DaNang チャン・ヒッチ・トゥイ  
 不明 ゲイン・ジイ・ティン・チュ  
 福島県 伊東 廣樹  
 同 岡崎 忠昭  
 同 柏 正二  
 同 木村 好久  
 同 常 泉 寺  
 同 鈴木キミ子  
 同 鈴木 教弘  
 同 高信由美子  
 同 西坂 勲  
 同 ハヤシ製作所  
 同 古内 利勝  
 同 村上 明子



認定NPO法人 シーエスアールスクエア (CSR<sup>2</sup>) (輝く学校広場)

Challenge for School Revival & Corporate Social Responsibility

〒960-8136 福島県福島市八島町6-29 TEL 090-2604-4226 FAX 024-533-2612

(ホームページ) <https://csr2.or.jp/>

(facebook) <https://www.facebook.com/Kagayakugakkou>

E-mail: [shishido.csr2@gmail.com](mailto:shishido.csr2@gmail.com)